

<b>団体名</b>	江田島市	<b>所属</b>	教育委員会	<b>他団体等との連携</b>	大学等教育機関
<b>連絡先</b>	学校教育課(0823)57-2613				

<b>取組事例名</b>	里海学習推進事業「江田島里海学習」	<b>取組期間</b>	平成23年度～
--------------	-------------------	-------------	---------

### 取組の概要 ～ 地域性を活かした特色ある教育

児童・生徒自らが地域の自然に直接触れ、海辺の生物を観察する体験活動や調査・研究活動（科学研究）などを通じて、ふるさとの自然に対する知的好奇心や探究心を育み、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てることを目的に、江田島市単独事業として「里海学習推進事業」を立ち上げ、「里海」を教育資源とした本市ならではの「特色ある教育」の充実を図っている。

特に、本市で育つすべての子どもたちに「ふるさとの自然」を体験する機会を設けるため、本市内全小学校5年生を対象とした「江田島里海学習」を平成23年度より継続実施している。

### 取組の背景 ～ 「地域の教育資源」の活用

近年、自然に親しむことの大切さが指摘されている中で、生活はますます自然から離れていることは否めず、身近にある自然と共生することの大切さを体験的に、また、継続的に学ぶ場や機会が少なくなっている。また、学校の中でも意図的・計画的に「地域素材」を活かした理科教育・環境教育が十分に行われているとはいえないのが現状である。

### 取組のねらい ～ 自然体験活動の推進

本市で育つすべての子どもたちに、「ふるさとの自然」を体験する機会を設けることにより、教育の充実を図る。

- 1 里海の生き物に触れ、身近なふるさとの自然の多様性やすばらしさに気付かせ、知的好奇心や探究心を育む。
- 2 本市内の児童が同時に共通の体験学習を行うことにより、学校間の交流を深め、コミュニケーション能力を育てる。

### 取組の具体的内容 ～ 小学校5年生を対象とした「江田島里海学習（マリン・アドベンチャー）」

本市内全小学校5年生（複式学級6年生を含む）を対象とした「江田島里海学習」を実施

- 1 **実施時期**：江田島市を3つの地区に分け、地区ごとに日程を調整し、各地区1回ずつ事業を実施（※基本的には、潮位が低く、午後に干潮時を迎える1学期に実施）
- 2 **実施場所**：大柿自然環境体験学習交流館（以下、「さとうみ科学館」という。）  
釣附海岸（江田島市大柿町深江）  
（※岩場・藻場・砂浜など様々な環境に適応した生物を観察できる場所を選定）
- 3 **教育課程上の時間**：総合的な学習の時間（4時間扱い）
- 4 **内容**：オリエンテーリング形式の野外観察を行いながら、里海の生き物に触れる体験学習「マリン・アドベンチャー」を行う。（※「マリン・アドベンチャー」とは、海岸にチェックポイントを設け、そこで出される課題にチャレンジしていくことで、生き物の特徴や海辺の環境について学ぶことが出来る、ゲーム感覚の野外観察。班で協力しながら、形を比べて分類したり、自分の量感にチャレンジしたり、藻場の役割を考えたりと、ふるさとの自然の豊かさを実感させる課題設定を行っている。）



## 取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 日程調整と時間の確保

総合的な学習の時間4時間扱いとして実施しているが、時間の確保が難しく、野外での体験学習を各地区1回しか実施することができない。また、5月～7月の干潮時の活動となるため、日程調整上、延期しての実施が難しく、雨天時には室内プログラムで対応している。

## 創意工夫した点 ～ 地域の教育資源を活用した学習の支援

### 1 野外での体験活動の充実

- (1) 地域の教育施設であるさとうみ科学館を事業推進の核に位置づけ、里海学習で用いる教材・教具の開発や事前準備、当日の運営などを円滑に進めている。
- (2) 各地区の各校5年生担任、管理職及び養護教諭、さとうみ科学館館長、市教育委員会担当者からなる実行委員会を開催し、事業の趣旨と内容確認を行い、共通理解のもとで事業を実施している。
- (3) 実行委員会開催時に配付する担当者用資料は、マリン・アドベンチャーのポイント解説に加え、海辺の生き物を活用する際のヒントも紹介されたものになっており、さとうみ科学館館長による簡単な講義とあわせ、地域の教育資源を活用した学習の進め方についての情報提供の場となっている。また、マリン・アドベンチャーの各ポイント担当は実行委員会メンバーが行うことになっており、教職員の野外研修の場にもなっている。
- (4) オリエンテーリング形式の野外観察にすることで、生き物の特徴や海辺の環境などについて楽しみながら学ぶことが出来る（ねらいに沿った適切な課題設定を行うことが可能）。

### 2 雨天時対応

雨天の際は、体育館内でマリン・アドベンチャー（室内プログラム用）を実施。

### 3 その他

事業実施後、マリン・アドベンチャー解答編（資料）と海辺の生き物検索表（下敷き）を児童に配布し、体験学習の内容を深めるとともに、ふるさとの自然に関する学習意識を実施後も高めていく手立てとしている。

## 取組の成果（効果） ～ ふるさとの自然を実感

- 1 学習の振り返りで行うアンケート（平成25年度）では、事業のねらい2点に関して、「里海の生き物の不思議さやおもしろさをたくさん発見できましたか」では、「よくできた」・「できた」の肯定的な回答は前年度同様100%であった。また、「江田島市内の小学生どうし、楽しく学習できましたか」では、「よくできた」・「できた」の肯定的な回答は96%で、前年度の89%を上回った。
- 2 児童が作成した川柳（最後の一句）から、里海の生き物に直接接触れ、身近なふるさとの自然のすばらしさに気付き、学習意欲を高めることにつながっていることが分かる。

※ 児童が読んだ川柳の抜粋

「初ちょうせん ムラサキウニを 手でつかむ」

「つるづきは 海の生き物 宝箱」

「海のこと もっと調べて 学びたい」

「美しい この海岸を このままで」

「これからも みんなで守ろう 里海を」

「同じ班 いっしょに解くの おもしろい 知らない子でも 仲よくなった」

- 3 継続実施している中で、低・中学年の児童は「5年生になったら自然観察会があるらしい。」と期待し、6年生や卒業生らは「この生き物は5年生のときに見たぞ。観察会をしたな。」と振り返ることのできる、江田島市の自然「里海」を意識するポイントとして、5年生、及び、「江田島里海学習」をとらえるようになってきている。

## 今後の展開 ～ 各小学校での教育活動との関連性

「江田島里海学習」を継続実施し、定着させるとともに、各小学校での授業や体験活動と組み合わせるなど、教育的効果を高める方策を検討しながら、今後も地域性を活かした「特色ある教育」を推進していくための仕組みづくりと事業の充実を図る。

## 他団体へのアドバイス ～ 「地域の教育資源」の活用と学校・関係機関の連携強化

海に限らず、山や川、街の中にもある自然を「地域の教育資源」としてとらえ、野外での直接体験を通じてふるさとを実感する「ふるさと学習」の一環として、どの自治体でも取り組める事業である。

自然体験型の事業が単発のイベントや活動に終わらないように、事業の事前・事後において、学校と関係機関が緊密に連携を図り、日頃行われている学校での教育活動と関連を持たせ、学びの質を高めていく場や機会を設定していくことが重要と考える。